



令和2年7月31日

緊急事態宣言前後における火災の推移

～ ガスこんろの火災にご注意を!! ～

令和2年上半期（令和2年1月～6月）の火災発生状況を分析したところ、火災件数は例年（過去5年平均）と比較して315件減の1,910件となり、現行の統計記録が始まった昭和35年以来、最少となりました。

緊急事態宣言が発令されていた4・5月の建物火災の発生状況を分析すると、事業所の火災は81件減少しましたが、住宅火災は20件の増加となりました。

住宅火災は、たばこ火災が減少した一方、ガスこんろの火災が増加しました。これは、ステイホーム期間中に自宅で調理する機会が増えたことが要因と推測されます。

今後も新型コロナウイルスの感染拡大により、自宅での調理の機会が増えることが予想されることから、ガスこんろの取扱いに注意が必要です。

1 令和2年上半期（令和2年1月～6月）の火災概要

(1) 全火災の状況

ア 火災件数は1,910件で、過去5年平均（2015年～2019年）と比べ315件（14%）減少し、現行の統計記録が始まった昭和35年以来、最少となりました（表1参照）。

イ 全火災の月別推移は、感染者の増加が顕著となり始めた3月から5年平均を下回り、緊急事態宣言期間中を含む4、5月では5年平均と比較して149件（21%）減少しています（図1参照）。

(2) 住宅火災の状況（※以下、件数、増減率は本年と5年平均のそれぞれの4、5月の合計値で比較。）

ア 住宅から出火した火災は、5年平均と比較して20件（8%）増加しています（図2参照）。

イ 住宅から出火した火災の出火原因は、5年平均と比較してたばこ火災が15件（29%）減少した一方、ガスこんろの火災が18件（29%）増加しています（図3、図4参照）。

(3) 事業所火災の状況

ア 事業所から出火した火災は緊急事態宣言中に減少が顕著となり、5年平均と比較して81件（42%）減少。宣言解除後の6月には23件減（23%）まで減少幅が縮小しています（図5参照）。

イ 飲食店の火災は緊急事態宣言前の3月から減少が顕著となり、5年平均と比較して32件（55%）減少。宣言解除後の6月には8件減（29%）まで減少幅が縮小しています（図6参照）。

(4) その他

放火火災は緊急事態宣言が発令された4月から減少が顕著となり、5年平均と比較して46件（35%）減少しています（図7参照）。

2 住宅火災発生状況の要因

住宅から出火した火災が増加していますが、たばこ火災が減少している一方で、ガスこんろ火災が大幅に増加しています。

ガスこんろ火災は、ガスこんろの使用経験が少ない人が、在宅期間中にガスこんろを使用したことによるものと推定されます。

また、飲食店の営業時間短縮や休業により、宅飲みやオンラインでの飲み会等で、ガスこんろを消し忘れた可能性があります。

なお、たばこ火災は、一定の時間が経過してから出火するため、都民のステイホームにより、火災となる前に発見されていたものと推定されます。

3 火災予防の注意点

(1) ガスこんろを使用する場合の注意点は、次のとおりです。

ア 調理中はガスこんろから離れないようにしましょう。

イ ガスこんろの周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。

ウ 防災製品のエプロンやアームカバーを使用しましょう。

エ 炎が鍋底からはみ出さないように調節しましょう。

オ 安全機能（S Iセンサー）付きのガスこんろを使用しましょう。

カ ガスこんろの使用経験が少ない人は、取扱い方法をよく確認しましょう。

(2) 消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に非常に効果的です。

火を使う場所には、消火器を備えましょう。

一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアゾール式消火具もあります。

(3) 手指消毒の際に使用する消毒用アルコールは、蒸発しやすく、可燃性蒸気となるため、火源があると引火するおそれがあります。消毒用アルコールを使用する付近では、喫煙やコンロ等を使用した調理など火気の使用はやめましょう。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212-2111
予 防 部 調 査 課 内線 5066 5068
防 災 部 防 災 安 全 課 内線 4192 4195
広 報 課 報 道 係 内線 2345~2350

表1 上半期（1月1日～6月30日）の火災状況

年 別	火災件数									
	合計	建物火災					林野	車両	船舶	その他
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや				
2019年 (令和元年)	2,241	1,529	64	50	269	1,146	5	106	1	600
2020年 (令和2年)	1,910	1,388	38	46	228	1,076	-	103	-	419
増減	▼331	▼141	▼26	▼4	▼41	▼70	▼5	▼3	▼1	▼181
5年平均	2,225	1,502	50	50	266	1,135	3	126	1	594
5年平均 比較	▼315	▼114	▼12	▼4	▼38	▼59	▼3	▼23	▼1	▼175

注1 5年平均は、2015年～2019年までの5年間の平均をいう。

注2 火災件数合計は治外法権火災を除く。

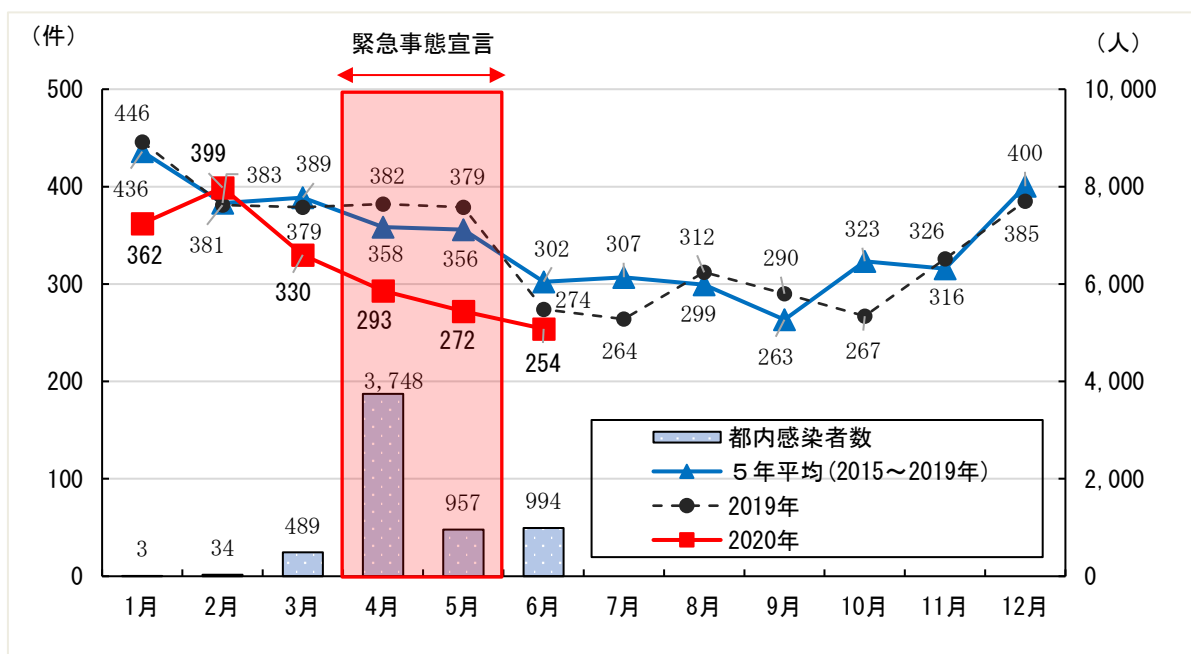


図1 全火災の月別火災推移

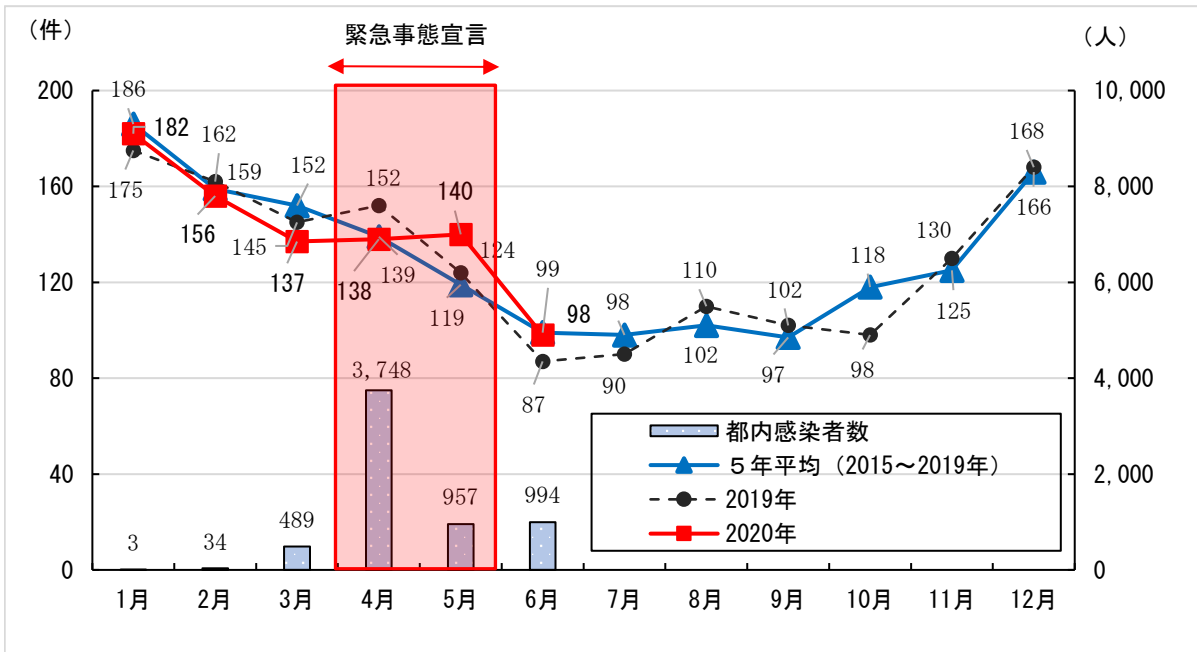


図2 住宅から出火した火災の推移

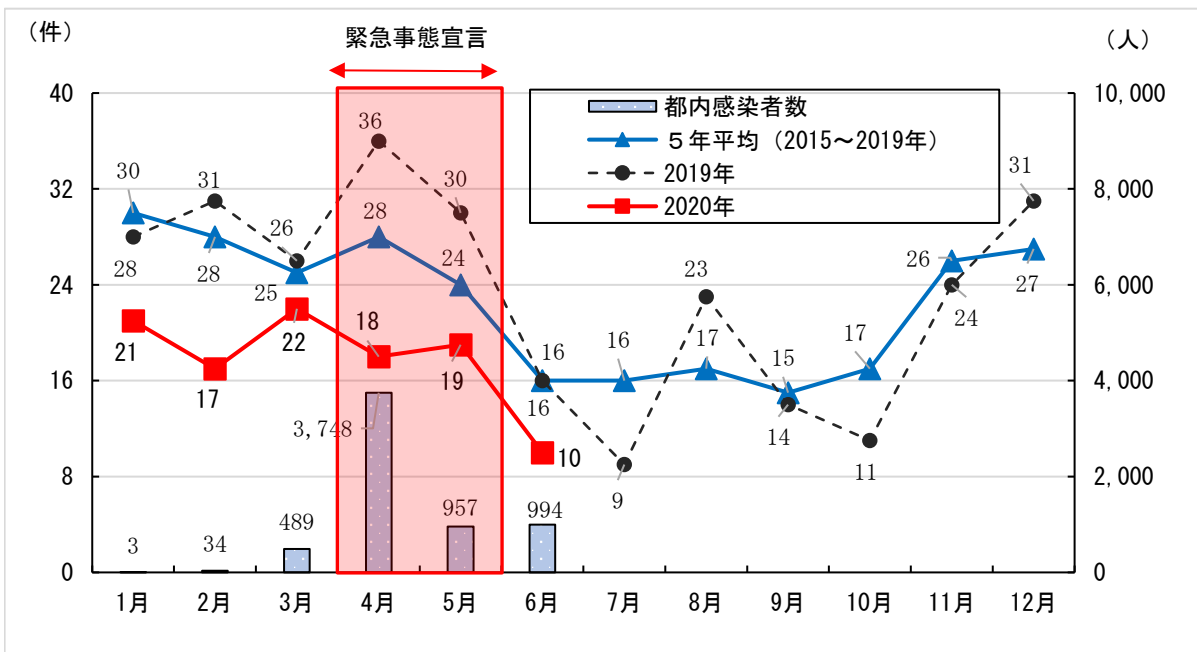


図3 住宅のたばこ火災の推移

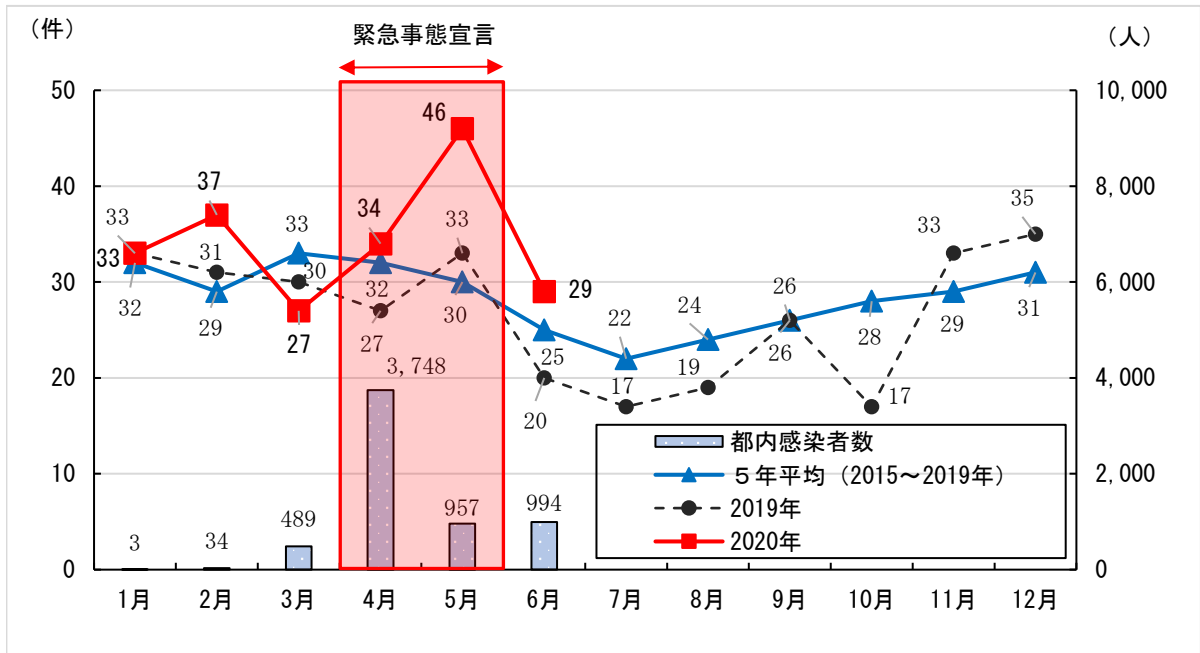


図4 住宅のガスこんろ火災の推移

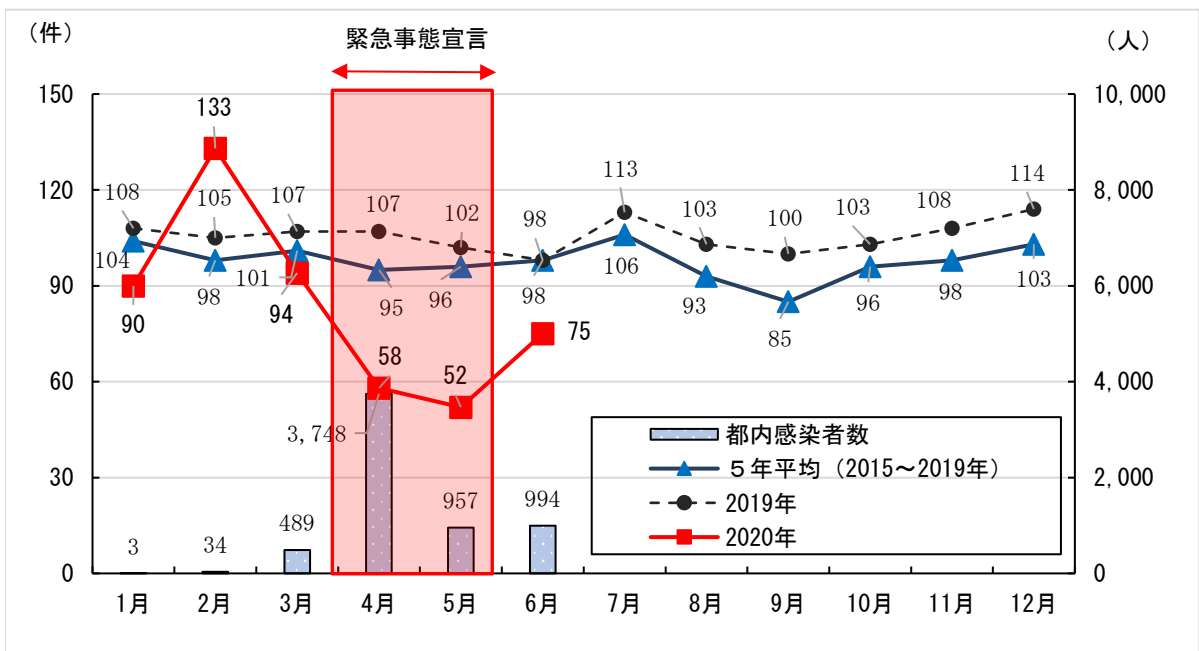


図5 事業所から出火した火災の推移

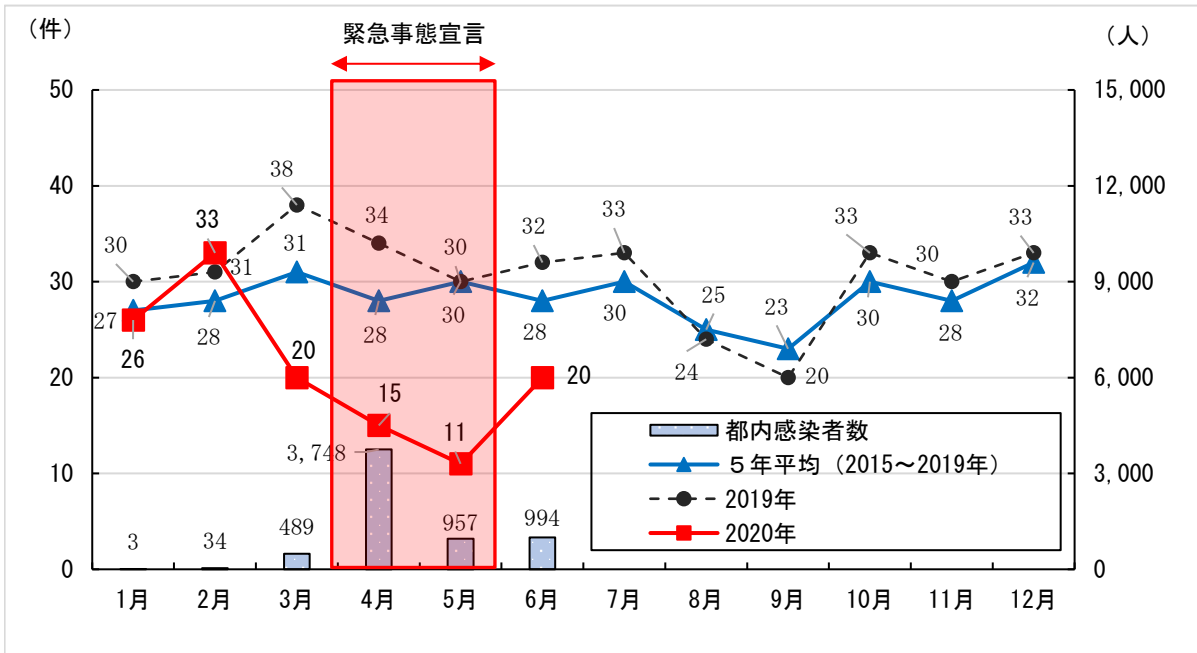


図6 飲食店の火災の推移

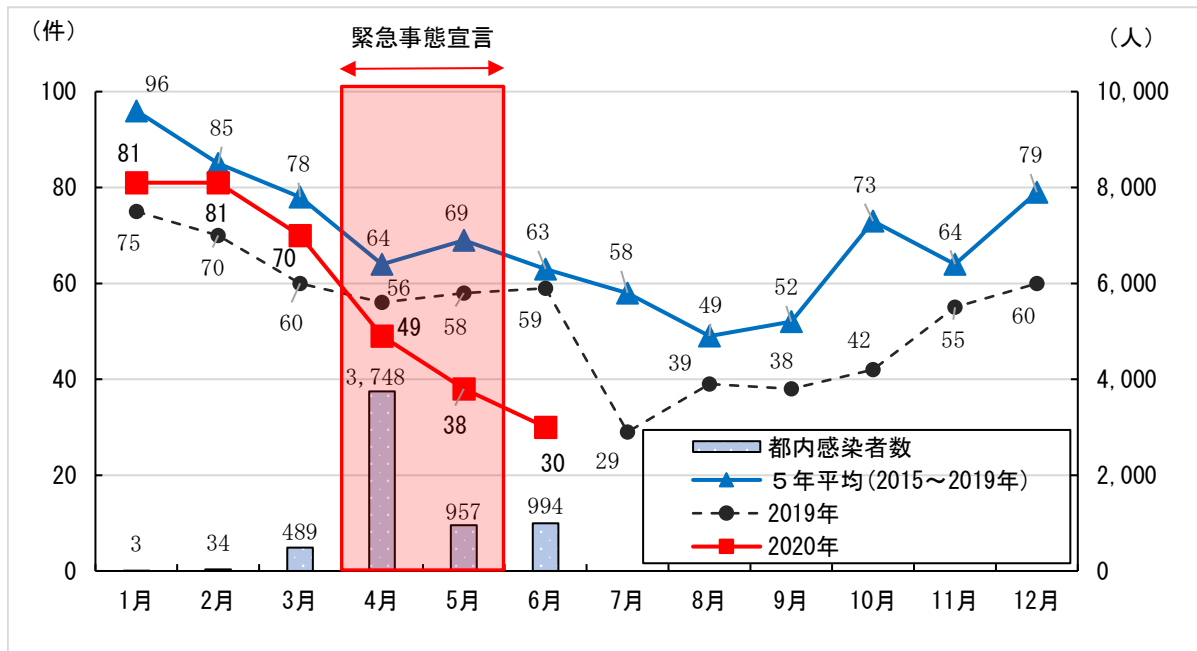


図7 放火火災の推移

【コロナ禍における特徴的な火災事例】

事例 未成年者のガスこんろ火災

出火建物等：共同住宅（1階台所）

焼損程度：建物部分焼1棟 内壁1㎡等焼損

概要：この火災は、共同住宅1階の台所から出火したものです。

小学生の女児が、ガスこんろで洋菓子を調理する際にこんろを点火しようとしたが、誤ってグリルを点火してその場を離れたため、グリルの油かすが過熱されて出火したものです。

出火時、保護者は不在で未成年者のみでした。